



沖田 ゆかり 議員

Q 被災者優先の避難所運営を

A 〈町長〉

被災者に寄り添った避難所運営を行っていききたい。

〔Q1〕 町の避難訓練で使用した、50人分が一度に出来る避難所用炊き出しアルファ米を提供しなかったのは何故か。

〔A1〕 備蓄はあったが、避難食については乾パンと水を優先的に配った。

〔Q2〕 乾パンは硬くて食べられなかった高齢者が多く、今後は提供の体制を整えてほしいが。

〔A2〕 今後、計画していく。

〔Q3〕 指定避難所である町民会館の浴室と、町民体育館のシャワー室の改修を望む町民の声は多く、早急に取り組むべきではないか。

〔A3〕 検討していく。

〔Q4〕 障がいがある為に避難されなかった町民に、トレーラーハウスを福祉避難所として活用されてはどうか。

〔A4〕 調査・研究していく。

〔Q5〕 被災した児童の継続的な心のケアが重要だと考えるが。

〔A5〕 校長の指導の下、養護教諭、スクールカウンセラーを中心として、全教職員で継続的に心のケアをしていく。

〔Q6〕 NPOや自治会、民生委員、ボランティアと十分に協議し、被災者に寄り添った円滑な避難所運営が行える計画の策定を望むが。

〔A6〕 計画していく。



大瀬戸 宏樹 議員

Q 災害の復興計画は

A 〈町長〉

砂防ダムの土砂や流木の撤去、河川の護岸復旧等、順次進んでいる。

〔Q1〕 火の原団地では土砂崩れによって家屋が半壊した。また滝ヶ谷団地上の砂防ダムには流入した土砂と流木があふれ、危険な状態が続いている。これらの復旧計画を問う。

〔A1〕 火の原団地の土砂崩れに対しては、土砂流木を撤去後、大型土嚢を設置して応急措置とし、安全対策を具に要望している。滝ヶ谷の砂防ダムについては、県がすでに土砂流木の撤去を発注している。

〔Q2〕 三谷川流域の氾濫は大きな被害が出ているが、その復興計画は。

〔A2〕 大型土嚢などでの応急措置はしているが、今後中長期的に新たなダムの設置、護岸整備、

河川の浚渫、農地の土砂撤去等を順次実施する。ダムの設置時期は未定だが、それぞれ対応方針を決定しながら県への要望を続ける。

〔Q3〕 三谷川の浚渫に関しては町が先駆けて着手すべきではないか。

〔A3〕 護岸整備は県の管轄だが、一体的なものであるため県と連携を取りながら進めていく。県も早急に着手すると聞いている。

〔Q4〕 避難所の開設についてその場所とタイムイングの統一した取り決めをすべきでは。

〔A4〕 原則として10カ所の避難所を開設したのちに避難準備情報を出す。



竹爪 憲吾 議員

Q 防災行政無線等の情報発信の計画は

A 〈町長〉

デジタル化へ更新し、現在より充実した情報発信ができるシステムを導入する。

〔Q1〕 小学校では防災士を講師に招き、学習に取り組んでいるとの事だが、全ての小学校で実施されているのか。

〔A1〕 第二小学校のみである。他校においては別の形で実施している。

〔Q2〕 甲府市内の小中学校で実施した予告なしの抜き打ち避難訓練では、休み時間中に突然鳴り響く緊急地震速報のアラーム音に、何も倒れるものがない安全な家庭にいた殆どの児童が、自分の教室の机の下に向かって走り出したとのこと。授業中に終わる何の失敗も起きない避難訓練では、時間、場所、状況に応じて適切に身を守るための応用力が養われていなかったことを踏まえ、熊野町でも予告な

〔Q3〕 尾張旭市では、全小學生に「子ども防災手帳」を配布している。災害時にどう行動すべきか、子どもが親と話し合いながら防災意識を高め合う内容になっており、被災された保護者の皆様から是非とも取り組んでいただきたいと伺っているが。

〔A3〕 検討していく。



し避難訓練を実施していただきたいが。

〔A2〕 状況を冷静に判断できるような児童・生徒になれるよう防災教育をしていく。

〔Q1〕 今回の災害を受けて更新内容の充実を考えているか。

〔A1〕 デジタル化によってより適切な状況判断ができる防災情報システムを導入し、災害対策本部の機能を高めたい。情報発信の面からは、町内放送に加え、登録すれば、携帯電話に避難勧告や指示の細かい情報が文字で発信される支援機能を備えたい。

〔Q2〕 被災後のライフラインの状況や道路情報等細かい情報も送信できるのか。

〔A2〕 スマートフォンには送信できるよう検討している。



〔Q3〕 防災行政無線のデジタル化への更新は、この災害を受けて、計画どおり進むのか。

〔A3〕 平成30年度、31年度の2カ年で完了する見込み。

〔Q4〕 戸別受信機を希望する町民に対してどのように考えるか。

〔A4〕 すでに受信機を購入している方には、低価格での交換も検討する。

〔Q5〕 熊野町災害FM放送終了後、どのように情報発信していくのか。

〔A5〕 ホームページ、ライン、フェイスブックなどで文字、図、絵等、これまで以上に情報の質を高めて発信したい。